

## 甲骨文字談義(1)

吉池孝一

甲骨文字に関心を持つ学生と教員の対話です。登場人物の設定は次のとおりです。

佐藤久美：学生。歴史一般に関心がある。

山村健一：学生。入門段階のいろいろな言葉の学習を趣味としている。

安井教授：漢文の教員。いろいろな文字に関心がある。学生とともに甲骨文字の勉強会をはじめた。

### 〈第1回目〉

#### 《はじめに》

……安井教授の研究室。甲骨文字の写真を見ながらお茶を飲んでいる……



『書芸術全集第一巻殷・周』より

山村健一：この文字、読めるようになりたいですね。

佐藤久美：もしも読めるようになったなら、3,300年ほどまえの社会の様子がわかるということですね。東アジアの源流を探ると言って良いのでしょうか。

安井教授：これはいまのところ、文字による、東アジアのもっとも古い記録とされていますから、東アジアの“源流”と言ってもいいのかもしれませんがね。

佐藤久美：ほんとうに読めるようになりますか。

安井教授：中国の古代史や青銅器の文(金文)の読解、それに文字と音韻学に精通していなければならないと考えると、不安になってしまいますね。

## 《教科書の記述》

安井教授：さて、佐藤さん、そこに高校の世界史の教科書（『三省堂 世界史[B]改訂版』）があります。古代中国の「殷」と「甲骨文字」についてまとめてくれませんか。

佐藤久美：はい。

教科書によりますと、こういったことです。

- 一、殷は紀元前 17～16 世紀ごろ建国され、紀元前 11 世紀ごろ周によって滅ぼされた。
- 二、現在の河南省安陽市に殷後期の遺跡がある。1899 年、この付近から文字が刻まれた獣骨や亀甲が発見された。これが「甲骨文字」である。
- 三、殷王は甲骨を用いて占いを行い、その結果にもとづいて政治を行った。その記録に使われたものが甲骨文字で、漢字の基礎となった。
- 四、占いを行うには、亀の甲や獣の骨の裏側を火で熱し、表面に生じたひびの具合によって吉凶を判断し、その結果を表面に刻み込んだ。
- 五、1928 年以来、大規模な学術調査が行われ、殷の事情が明らかになった。

安井教授：この教科書の記述を一つずつ確認していきましょう。まずは、「一、殷は紀元前 17～16 世紀ごろ建国され、紀元前 11 世紀ごろ周によって滅ぼされた。」という部分です。

## 《商と殷》

佐藤久美：中国で出版された本の年表をみますと、古代の王朝が「夏」「商」「周」・・・と並んでいます。どうして「殷」という王朝名が出てこないのでしょうか。

安井教授：殷の人たちは自分たちのことを商とよんでいたようです。こんなことが書かれた甲骨文字の文があります。

己巳に王が卜して、貞（問）うた；  
今歳、商は年（一年の作物の実り）を受けるか。  
王、占って曰く；吉である。

これは「己巳【という日】に王が卜をした。【その卜占において】問うた。“今年、商はみのり（一年の作物の実り）を受けるでしょうか”と。それから、王は【甲骨にできたひび割れの具合を見て】予言をして言った。“吉である”と。」という意味でしょう。この文に続けて、「東土、南土、西土、北

土」について、順番に、実りを受けるかどうかを問うています。

山村健一：東土、南土、西土、北土というのは東南西北の地域ということでしょうか。

安井教授：「土」はふつう“土神”とされています。したがって、東の土神、南の土神、西の土神、北の土神ということになります。

山村健一：「商」が都市名もしくは王朝名として、四方の「土」が土地神とすると、表現として、つり合いが取れないような気がします。四方の土地神が支配する土地・地域ということで、結局は、四方の土地・地域ということになるのではないのでしょうか。

佐藤久美：商の土地を中心として四方に土地があるということですね。そして、王は、商の土地と共に、その外にある四方の土地の実りも占っているわけです。四方の土地の実りを占っているということは、四方の土地は商とは呼ばれないけれども、王の支配下の土地ということになりませんか。そうしますと、“商”は、ふつうにいう王朝名というよりは、都市名としたほうがふさわしいのではないのでしょうか。

安井教授：このような議論は、用例を集めてすべきもので、1文のみでは、なんともいえません。都市名なのか、王朝に「相当する」名称なのか、族名なのか、それらが渾然として一体となった名称なのか、わたしにはわかりません。

山村健一：それでは“殷”というのはなんでしょう。

安井教授：ずっと時代はくだりますが、前漢の司馬遷が書いた歴史書の『史記』には「夏本紀」「殷本紀」「周本紀」とあります。殷を王朝名としているわけですね。いっぽう、『竹書紀年』（夏から戦国時代の魏までの年代記）という本によると、「盤庚王が殷に遷都してから最後の紂王が滅ぶまで 273 年間は都を移すことはなかった」（「自盤庚徙殷、至紂之滅、二百七十三年。更不徙都。」）とあります。こちらによると殷は都市名ということになります。ただ、甲骨文字で書かれた文のなかに、“殷”に相当する都市名はないようです。

夏と周の間の王朝名を、日本では殷と呼び、中国では商と呼ぶのが一般的ですが、わたしたちはとりあえず商（殷）とすることにしましょう。

### 《商（殷）の年代》

佐藤久美：中国古代には、夏、商（殷）、周という王朝があつて、教科書によると、「殷は紀元前 17～16 世紀ごろ建国され、紀元前 11 世紀ごろ周によって滅ぼされた」とあります。建国と滅亡の年代ですが、もう少し年代の範囲を狭めることはできないのでしょうか。

安井教授：夏は今のところ伝説の王朝のようです。その夏の最後の王とされる桀を、湯王が倒して商（殷）を建てた。それから、商（殷）の最後の王の紂を周の武王が倒して周を建てた、ということなのですが、商（殷）の湯王が夏の桀王を倒し

た時と、商（殷）の紂王が周の武王に倒された時がわからないのか、ということですね。佐藤さんの後ろの書架に『史記』があります。とってもらえますか。

佐藤久美：はい。前漢の司馬遷が書いた中国の歴史書の『史記』ですね。

安井教授：これからの話は『中国の歴史 01 神話から歴史へ 神話時代 夏王朝』（宮本一夫著。講談社、2005年）の307-308頁をよりどころとした話ですので、そのつもりで書いてください。

さて、『史記』の目録に帝紀、年表、八書・・・とあるなかの、年表第二巻の「十二諸侯年表第二」の部分を開いてください。そこに周、魯、齊・・・と国名がならんでいるはずですが、周の最初の年号はどうなっていますか。

佐藤久美：「共和元年」とあります。

安井教授：そうですね。そこには周の共和元年（紀元前841年）から敬王四十三年（紀元前477年）まで並んでいます。そして、続くほかの年表により、前漢の武帝の太初四年（紀元前101年）まで、たどることができます。

佐藤久美：先生、周の共和元年（紀元前841年）以前の部分は空白ですが、どういうことでしょうか。

安井教授：空白だということは、商（殷）の紂王が周の武王に倒された正確な年代はわからないということです。

わからないのですが、いくつか説はあります。古く見積もった説に紀元前1111年があり、新しく見積もった説に紀元前1023年があります。

山村健一：そうしますと、紀元前1111年説と紀元前1023年説をかりに受け入れたとして、商（殷）王朝の建国と殷への遷都のほうは、いつごろとなるのでしょうか。

安井教授：『竹書紀年』という本に「湯が夏を滅ぼし、二十九代の王を経て、四百九十六年かかった」（湯滅夏以至于受、二十九王、用歳四百九十六年）とあります。ですから、商（殷）の湯王が夏の桀王を倒した年代は、紀元前1111年説によると、これに496年をたして紀元前1607年となります。他方の紀元前1023年説によると、これに496年をたして紀元前1519年となります。

山村健一：そうしますと、殷の都への遷都は、さきに紹介していただいた『竹書紀年』の「盤庚王が殷に遷都してから最後の紂王が滅ぶまで273年間は都を移すことはなかった」（「自盤庚徙殷、至紂之滅、二百七十三年。更不徙都。」）を使えばいいわけですね。紀元前1111年説によると、これに273年をたして紀元前1384年となり、他方の紀元前1023年説によると、これに273年をたして紀元前1296年となります。

安井教授：『竹書紀年』の記述を“信じる”ならばそのようになるということです。大事なのは、出発点の二つの説ですが、専門にすぎるので将来の課題ということに

しましう。とりあえず佐藤さん、これまでの話を白版にまとめてください。  
 佐藤久美：はい、こういうことでしょうか。

夏の桀王⇔商(殷)の湯王	殷へ遷都、盤庚王	紂王⇔周の武王
前 1607	前 1384	前 1111 説
		//////// 共和元年前 841
前 1519	前 1296	前 1023 説
<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> 496 年間		
<hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> 273 年間		

山村健一：商（殷）は、古く見積もった説によると紀元前 1607 年から紀元前 1111 年まで、新しいものによると紀元前 1519 年から紀元前 1023 年まで、ということになりますね。

安井教授：そうですね。商（殷）の王朝では占いが盛んに行われたらしいのですが、占いの内容が亀の甲羅や獣骨に甲骨文字として残されているのは、商（殷）の後半にあたる時期で、殷に遷都してからのようです。